

薦 め た い 理 由
頭の中が整理される、文学関係志望の人は必聴。 発想がユニークで総合科学的見地に立っている。 この先生のお陰で卒業できました。 二日酔いの顔がいかなるものかじっくり観察できる。
文化人類学の面白さが次々とひきだされてくる。 何を勉強するにしろ、社会思想に関する考慮は、「人間」にとって必要です。 現代社会人ならば、その基盤である「民法」の体系を学ぶべきである。 学問の厳肅さに触れることができる。
動物の行動、ひいては人間の行動を調べる上での面白い研究法が聞ける。 マンツーマンでアットホームな雰囲気の中で、電磁気の面白さがわかる。 熱弁が聞き応えがある。 生命科学に必要な生化学の基礎的知識をわかりやすく教えてもらえる。 これからの都市づくりの視点を個人的な人柄で解説。
教官とのマンツーマンの講義だった。こういう緊張感も必要だろう。 ディスカッションができる。 全ての講義。

って、どれを薦めるといえることは言えないが、講義の内容というよりも、講義の形をもっと研究して欲しいと思う。先生から聞くだけでなく、自らも積極的に参加し、問題点を討議していけるようなゼミ形式の授業をもっと多くする必要がある。でなければ学生も単に単位を取るだけの授業になってしまうがちになる。

- 卒論に関してであるが、社会文化の学生に卒論が必要かどうか疑問である。強制ではなく、自由にしても良いのではないか。また、卒論を書くのが短期集中的になりがちであり、2年の時からゼミの中でレポートを作製しながら自分が書こうと思っているテーマについて長期的に作製しなければ形だけの卒論になってしまう、卒論を書く意味が失われているのではないだろうか。一考を要して欲しい。就職面に関して、社会文化よりも他コースなどに於ては非常に甘さを感じている次第である。早期の指導が望まれる。
- 総合科学部では、教育学部心理学科等には劣ると思うが、心理学の授業に特色があると思う。「人」を知るという点で非常に役立つのではないか。
- 自由選択の講義が多く、自分の興味のある講義がとれるのはいいのであるが、各講義ごとの横のつながりをもっと持たしてほしい。今のままだと各

教官の専門をつまみ食いというだけで終わってしまうようですな。

- あまり教育しない方が個性を伸ばせてよいのではないのでしょうか。自分勝手にやりましょう。
- 学部は総合科学部と称し、学際領域の研究をめざす、と言う割には、そういう講義があまり無かった気がするが……？
- せっかく広島にあるのに、もう少し平和問題に関する講義があってもいいでしょう。まあ、必修にすればいいというもんでもないけど、これで移転しちゃうと、ますますこの問題が縁遠いものになるような気がします。
- 教官の勤務評定を学生によって実施すること、これはまじめな提言なんだけれども、学生は割とちゃんとわかっているのでイイ線いくと思う。きちんとやってみれば教育面の質的向上に一番効果があるでしょう。
- 2年生になりコースが決定してしまうと、コース内の授業が殆んどになってしまうのはしょうがないとしても、そのコース内での群まで決めてしまうと、他の群と重なって、聞きたい授業があっても聴講できない。さらに、環境科学コースに進むには、1年生の時分から、制限単位・必修単位があって進みにくく、他のコースに流れてしまう危険

性が大きい。もう少し1年生での必修単位を減少させてほしいものだ。

- もっと総合科目を増やしたら良いと思う。“環境科学へのアプローチ”、“人間と環境”などのように、あるテーマで多数の教官の講義を聞くと、非常に役立つように思う。
- ①カリキュラムを自分で自由に組めるというのは、自分の進路がしっかり定まっていな人にとっても、又、目標をしっかり持っている人にとっても好都合であると思う。1・2年のうちは、一体何をしに大学に来たのかわからなくなる人も多いと思うが、大いに悩んで、試行錯誤をやってみればよいと思う。その中で、本当に自分のやりたい事がわかって来ると思うし、それを見つけようと努力すべきだと思う。自分のやりたい事がしっかりしている人で、総合科学部にもの足りなさを感じる人もいると思うが、そういう人は環境に不平を言うより、自ら積極的に回りに働きかけ、自分の道を開拓していったらよい。

その2

「私の学生観・職業観」

学生観

- 学生というのは、やれ試験だ、レポートだと追われてみても、実はありあまるほどの時間を持っているらしい。ありあまっていたはずの時間も、結局空費してしまって、4年も終わろうとしている。“いつまでも あると思うな ナンタラカンタラ”とはよく言ったものである。
- 日本には学生がいっぱいいること、また学生もいっぱいいること、そして僕はその中の一人であること、∴どんなんでもいい。考えてみるにこれだけ大学の大衆化が進むと（もちろん、これはいい事です）一つの狭い枠の中に学生を押しこめることは不可能でしょう。
- 大学生活は休日をいかに利用するかだ。勉強するのもよし、遊ぶのもよし、そこに何をするかで学生個人の価値がわかる。僕は遊んでほしいと思う。ただし、その遊びが道楽であってはいけない。学生は考えて行動しなければならない。
- 学生は勉強せねばならぬ。遊ばねばならぬ、スポーツせねばならぬ。働いて労働の尊さを知らねばならぬ、いろいろな人と知り合いにならねばならぬ。これ学生の5原則。

②就職関係の案内が不備であると思う。社会のどのような方面にどのような形で卒業生を送りこむ事を目標としているか、前もって具体的に示し、その為の指導をしていくべきだろう。

③、①で自由にカリキュラムを組める事は良い事だと述べたが、例えばこのような分野に進みたいなら、このようなカリキュラムの組み方が良いという例を示すべきである。

④教職関係-教職関係の専門科目の中で、非常につまらないものがある。学生も、ただ教職を取っておけば得になるという安易な気持ちで受けている人が多すぎる。グループ討議や発表を主とした内容にしたらどうかと思う。このままでは相方（教師とやる気のある学生）が嫌な思いをするだけだ。

◦何でも総合・ソウゴウ・そうごう……。

「そうごう」のように何でも売り物にすることは、私には至難のこと。

やれる人は勝手にやって下さい。

- 学生はマージャンを覚える者。喫茶店でコーヒーをたのんでマンガを読みふける者。文庫本を読んだり、革命的な狂信的な人間の話に夢中になる者。なんとなく授業に出ていて「おもしろくないなあ」とつぶやきつつ単位を集める者。
- 社会に出る前のワンステップとして大学があるように思う。たしかに学問を深める場であって、職業、進路を最終的に決定しなければならないのも事実である。
- やっぱり学生は“よく学び、よく遊べ”に尽きるんじゃないでしょうか。
- 自由な気持で行動できる人。
- 学生は学問に専心すべきである。これは最少限のことであり、かつ人間として、自己を極めるため心身を鍛練する必要がある。すなわち文武両道こそ学生の理想的な姿だと思う。
- 総科という学部は、何々をしるか、これこれの分野へしか進めないというのではなく、比較的、自分の思った方向へ進もうと思えば進める所だから、自分の好きなように自分なりに努力すればいい。ただし、単位がとれなかったとか、4年間で卒業できなかったからといって、くやむようでは

いけない。

- 学生はそれ自体矛盾の中にある。(詳しくは芝田進午著の『現代の精神的労働』を参照されたい。)この矛盾が運動として表われ、発展へと向わなければならないのに、多くの学生は自らの立場と現体制に甘んじ、いかんせん矛盾を矛盾としてみない。我々の同年代の労働者を思ってみたまえ、少なくとも、学生は彼らとともにあるべきである。
- 此頃の学生はよく勉強すると思います。

職業観

- 職を持つと、たいていは時間に縛られるものらしい。自己の興味と意欲で選んだ職につけないかぎり、就職は地獄じゃあないかな、と常々思っている。
- 職業は生きるために金銭をかせぐためにする労働、体力を売り物にしなければならないのがつらい。
- 職業は報酬を得るだけのものであってはならない。自分が働くための価値がその職業にあるならば、どんな仕事を選んででも良いと思う。しかし、その中にあるだけでも、権力にだけは屈服してはならないという意志を持ち続けることは必要である。
- 職業は、どんな種類の仕事でも社会全体の歯車の1つであることを忘れてはならないと考える。そして歯車をスムーズに回すようにするのが、人間の役目であるような気がする。どんな仕事でも、誇りを持ってやりたいと思う。
- 僕は金儲けのために働くというだけのことです。つまり学生から労働者になるということです。これ、いちばん大事なことでしょ。
- ④⑤に魂は売らない。私は自らが搾取されることを拒否する。
- 仕事をやる本来の目的は、恐らく、1)生活の糧を得る。2)仕事を通して広い心を養う。3)社会への奉仕の3つではないでしょうか。だからその人な

りに精一杯にやっていたら、それ程、合理的、生産的でなくても、素晴らしいことだと思います。けれど最近では、4)お金を儲けて贖済をするのが主流になっているようですね。

- 職業とは人間が社会の一員として、自己を生かす手段であり、また男として目標を達成する道でもある。どんな職業につくかで人生が大きく左右されるが、より大事なことは、いかに努力するかである。
- わたしは、ほんとうに何もかも他に依存して甘えてきた学生でした。学生は甘えようと思えば甘えられるが、職業を持つとこの甘えが許されない(らしい。)
- 厳しい現実であると思います。
- 大学生は「レジャー世代」であり、社会人こそが「現実の苦難」の場であるという見方も世間にはあるようだが、これからの世の中、これがちょっと変わってくるのではないかと思う。たとえば、終生、大学生気質を持ち続ける「社会人」がもっと増えてくるのではないだろうか。
- 大学生であれ、職業人であれ、学ぶということを忘れないようにしたい。
- 学生というのは社会を温室の中からのぞいている状態であり、職業は社会の中に入っている状態であり、おのずと、そこには責任、経済力などの点で、学生は自由の効く状態であり、やりたいことをやるには、この時をおいてほかにないと思う。
- 私は、そんな「……観」という観は嫌いです。(思考能力を越えてない)学生の人間関係についての観方:(言い方)あなたのじゃまはしませんから、私のじゃまもしないで下さい。(最近、感じました。)

その3

「私の大学生生活」

- ① 卒論ひとこと紹介
- ② 大学生生活をふり返って - 印象に残っている事、いちばん言いたい事 -

地域文化コース

▶ 大山茂之

- ① 「16～18世紀イングランドの社会構造」
原書を読むのに精いっぱいだった。

- ② いつも先輩がいると思っていたら、そのうち自分が先輩と呼ばれるようになって、そのときはもう遅かった。

▶ 小林繁実

- ① 「古代における星辰信仰について」

日本古代において星がどのような観念を持たれていたかを見ようとした。出来あがったものは、雑然とした、まとまりに欠けるものになってしまったよ

たことを今さらのように考えるのである。もっと勉強しておけばよかった。

社会文化コース

▶伊東巧

①「ジョン・ロック研究」

私の卒論最終提出日は2月2日でありました。皆様方の御厚意に感謝いたします。

②ここ数日、ほとんど眠っておりません。たった今卒論が終わったところで、頭がはっきりしません。今のこの感激を言葉にするなら、眠い／＼疲れた／＼みなさん、卒論は早めに取りかかりましょうね。清書するのは、とっともたいへんですよ。

おやすみなさい

▶松岡勇

①「海面埋立にともなう漁業補償」

卒論に本格的に取り組んだ時期が遅かった(11月)ので、内容が深められなかった。しかし、自分なりに問題意識が広がったことがためになった。

②大学生活の中で一番印象深いことは、サークル活動(探検部)のひとつひとつだ。90メートル級の堅穴にもぐったり、沖繩諸島を歩いたりしたことなどだ。大学内での印象は平凡なる毎日というところか。4年間の大学生活に悔いがなかったと言えばウソになるが、今から考えてみれば、その時点では自分なりにベストを尽した「つもり」であった。後輩に言っておきたいことは、この「つもり」に流されてはいけないということだ。何かを計画し試みる時には、可能性のすべてをぶっつけなければ、結局は時間の流れが中途半端な試みなどを「無」にしてしまう。何事でも良いから「つもり」ではなく「自覚」を持って行動したいものだ。

▶田中孝典

①「全国地方都市財政統計比較」

全国の地方都市の財政について、数値を用いて都市を分類し、同じ型の都市を地方財政のあり方について研究しようとしたが、多くの数値を用いることができなかったし、結論としては財政改革の必要性を説くというありふれたものになってしまったようだ。

②大学生活の思い出は、良く遊んだということだろうか、印象に残っているのはクラブ活動がある。部長もやったし、いろんな所を旅して歩いたことだろう。大学生活の中というよりも大学で得たことは、自分が将来どんな仕事をやりたいのかをはっきりと見つめられたことである。中途半端に就職先を決め

うだ。

②私の友人には、ひたすらに学問に没頭している者もいれば、講義には顔も出さずに、ひたすら自分の興味を求めている者もいる。多くの友人は、そのどちらにも徹しきれずにいるように思う。私も、もちろんその一人であるが。そのため、何かに徹している友人というのがうらやましくてならない。4年間の学生生活を、もっと有効につかいたかったというのが今の気持である。

大学という所は、肩書きを取るための場所ではないと自分では信じている、あるいは信じていたのだが、ちゃんばらん生活をして来たので、人からはそう見られているかも知れない。何か徹しきるものを持ちたかった、と嘆いてみても、もう手遅れかな？

▶河本隆

①いやなことは早く忘れる主義なので……

②松山が死んだのは僕が2年生の夏、7月13日の多分水曜日だった。彼が死んだ時、僕は家に帰っていてそのことを友達から電話で知らされた。その時勿論ズンと来る衝撃はあったのだけれど、それ以上に彼に対するどうしようもない怒りのような気持ちの方が大きかった。その前年の秋に彼が未遂事件を起こしていたのを知っていた僕たちは、彼に汗を流して働けだの女と寝てみろだのと、わけのわからない忠告をし、実際に一緒にバイトをやらせていたせいもあって死んでしまった彼に無闇に腹を立てていた。今僕たちは彼をギャグの俎上に乗せることによって僕たちの中に生かしている。それが僕たち流の彼に対するレクイエムだ。

▶浜田紀子

①「バリ島における象徴的二元論」

バリ島において顕著な山と海、右と左の二項対立の世界観が現実の生活にどのように反映されているか。②大学に入学した当時は、すべてが新しくて珍しくて、嬉しくて、嬉しくて、嬉しくてしょうがなかった。何しろ大学に入ったら遊んでやろうと思って入ってきたのだから勉強しようなんて気はさらさらなく、クラブ、その他に熱中していた。はっと気がついたのが3年になってからのことで、大学に入って何をしてきたのだろうかと考えようになった。ふとまわりを見てみると、コツコツやる人は、語学にしろ自分の専門にしろしっかり身につけてきているようである。今さら後悔してみても始まらないが、やはり大学とは、学問的知識を増やすところであっ

たのではなく、自分の進みたい希望をとことんまで追求し、その希望がかなえられたことだ。後輩諸君、自分を安売りせずにとことん自分の意志を貫き通してほしい。将来の自分にとって何をやるのが最も大切かをこの大学生活の中で学び取ってほしい。総科の今後の発展のためにも、君たちの受け持つ責任はとても重いものだということを考え続けてほしい。

▶大西五己

①「マルクスにおける『大工業』理論の成立過程の一考察」

『資本論』における「大工業」理論がどのようにして成立したか、マルクス・エンゲルスの主要な著作の内容分析によって跡づけたかった。一種の“マルクス主義思想形成史”で、どうにか初期の目的は達したが、邦文にたよっているため、十分な概念分析ができなかった。

②3年の春(54年3月)に一ヶ月間ヨーロッパに旅行したこと。4年の末になって、やっと学究することの楽しみ、面白みと苦しみを知った。

▶酒井英史

①「社会的分業」概念の検討

②たくさんの良き先輩にめぐりあえたことが、最大の幸運であったと思っています。とりわけ、大学院生(比較社会系)の猛勉強の様子には、ことのほか感服いたしました。

情報行動科学コース

▶井原誠司

①「自然数論の形式的展開」

参考文献は、朝倉書店の「数学基礎論入門」(前原昭二著)だったが、この本を読みこなすまでに至らなかったことに悔いが残る。(ほとんど卒論の文章もこの本の文章を頂戴した。)

②いちばん言いたい事として、大学生活において最も大切なことは、人格を完成することだと思う。

▶坂田省吾

①「ラットにおける時間弁別」

動物の時間知覚を調べたかった。しかし、その実験の遅々として進まないのに比べて、なんと時間の経つことの早さよ。

②大学に入学して、最初の夏休みに、3週間程北海道を旅行した。いろんな人と出会った。そのまま別れてしまいたくない人もいた。でも、みんな、それぞれの思いで、何かを求めて旅をしていた。大学という所が、どんな所か何もわからなかった私にとっ

て、旅で経験した出会いと別れが、それからの4年間の学生生活における原点になったような気がする。みなさん、若いうちに遊びましょう。クタクタになるまで、自分の限界に挑戦するような気持ちで遊びましょう。遊びこそ人生です。

環境科学コース

▶大久保卓也

①「重金属の生物濃縮－水銀」

生物試料を測るまでいけませんでした。実験研究の難かしさ、人間(特に自分)の非力さを痛感しました。

②ひとりよがりの判断かもしれないけれど、だいぶ自分を成長させることができたように思います。優柔不断な性格で、自分から積極的に何かをやっていくという事ができない自分でしたが、体育会の役員をやった事、そしてその中で友人関係や様々な経験が、自分の枠を広げてくれたように思います。最近の学生は、無気力、無関心、無責任等々という批判がありますが、そんな事はないと思います。内心はみな、何かをやりたい、自分の才能を試してみたいと燃えるものがありながら、それをやる場や機会をみつけれないのです。ぼくが、在学する人に言いたいのは、自分のやりたい事ができる場を求めて、とにかく行動してみろということです。

▶西島俊彦

①「鉄道沿線における帰化植物の動態」

題目はカッコイイが、実は廃線目の字品線を歩き回っただけのこと、やったことは帰化植物の分布と季節的变化、そして帰化率の算出。ひとつの植物をくわしく研究して卒論にもりこみかけたけれども、除草剤を散布されて出来なかった。

②大学生活をふり返ると言われると、真っ先に思いつくのはサークル活動である。私は3年間あるクラブに在籍したが、このクラブは本当によく話し合うクラブで、徹夜会もなんのその、結論が出なければ翌日も話し合いといった具合である。そのためかどうか定かではないが、試合の方は近頃は低空飛行。試合に負ければまた話し合い。この繰り返しを3年間も体験すると、クラブをやるということはこんなに真剣に考えなければならぬかと思ってしまう。ある友人いわく、「社会人になったらこんなものじゃない」そう。社会人になる前に人生の苦しさ、難しさを味あわせてくれたんだから、感謝しなければいけないんだろうな。